

オーディオスピーカー

## 名機、よみがえる

鶴岡の職人集団



組み上げたばかりのスピーカーに耳を当てて最終チェックする庄司伸一さん。納得する音が出るまで調整を繰り返す

II 鶴岡市

学生の頃はとても手が出なかつた憧れの高級スピーカーを、数十年を経て中古で見つけ、買い求めてオーバーホールを依頼する人、購入先のオーディオ店から修理を断られたと持ち込む人。メーカーから自社製品の修理を請け負うこともある。「死んだ父が使っていたものなんです」。形見の再生を手掛けるケースもある。

オンリーワン  
クラシックカーがそうであるように、ビンテージスピーカーには、現行の製品では再現できない音と響きがあり、愛好者を引き付け

### 異常音と格闘

佐藤さんたちの手仕事によって修理が施されたスピーカーユニットは、庄司さんが男性職人に委ねられ、電気回路（ネットワーク）を調整し、木製の箱（エンダー）とするスピーカーの職人集団・小川電器商

会（鶴岡市）のオーディオ修

スピーカーサービス部は、これにきちんと応えることとで他にまねのできないオンラインワーフのサービスを顧客に提供している。

庄司伸一さん（38）は、修理の最終工程に入った大型スピーカーの前にかがみ込んでいる。高さ約1・3㍍

木目が美しく、素人目にも高級と分かるその英國製スピーカーに耳を当て、そこから発せられる音に神経を集中させていた。そして、首をひねった。「断続的に異常音が聞こえるんですよ」。

庄司さんの上司太田望さん（39）は「欧米の製品は造りにくせがある。だから、型通りの仕事では駄目なん

です」と話した。欧米製のビンテージスピーカーは、

「造りの均一性なら国産名機と呼ばれているもので、あっても個体差があるといふ。その差を見極め、個別

に対応できる知識と組み上

思議が詰まった小宇宙な

かもしない。「愚直にや

ろう」。太田さんが同僚た

下 木箱の中は不思議な小宇宙

# 往年の輝きさらに追究



## 取材雑記

◆中学生か

しい農村を舞台

に

つ浪人たちを

す

う。「『なぜ斬

られないか』に悩

められない。

◆海外でも高

われていく男

を取り上げた前

に焼き付いてお

る。『作に期待が膨ら

は心もどないが、衝撃を

受けたことは覚

えていた。

◆海外でも高

われていく男

を取り上げた前

に焼き付いてお